

第50回未来教室 杉並区立三谷小学校

1. 学校名 杉並区立三谷小学校
校長 山岸一良
2. 住所 杉並区上井草3-14-12
03-3390-0164
3. 開催日時 平成25年11月9日(土)
2時間目 9:10~9:55
4. 実施学年 6年生 3クラス合同(78名)
会場 体育館
5. 授業内容 教科「総合的な学習の時間」
「すき家とゼンショーグループの取り組み」
6. 協力企業 株式会社 ゼンショーホールディングス
講師 株式会社 なか卯 社長 長谷川龍哉様

当日の様子



三谷小学校「12歳のハローワーク」

杉並区立三谷小学校6年担任 島貫 正嗣

本校の6年生は、通年のカリキュラムとして、総合的な学習の時間で、「12歳のハローワーク」を学んでいます。春にはプロフェッショナルの仕事について学び、仕事への思いや厳しさ、楽しさをお聞きしました。自分たちの地域の商店街での仕事体験もあります。今回は、おやじ日本の「未来教室」として、社会貢献も仕事であるというスタンスの企業、ゼンショーホールディングスの株式会社なか卯社長、長谷川龍哉さんの授業を受けました。

授業の柱は「社会貢献」。冒頭、企業の概要や安くておいしい商品提供の仕組み、食料自給率39%の日本が食に困らない理由など、分かりやすい説明がありました。

そして話題は、戦争や紛争が続くアフリカ諸国、東日本大震災の被災地への食糧支援に移りました。長谷川さんご自身の経験談も交えて、「世界から飢餓と貧困をなくす」取り組みを企業の仕事として積極的に行っているという話や、各地に支援物資を送るだけではなく支援物資となるミルクなどを食料生産から配給まで全て責任をもって行っているという話がありました。東日本大震災の被災地では、大きな被害を受けたものの、他のどの店舗よりも早く営業を再開し、多くの被災者の方たちにあたたかい食事の提供ができ喜ばれたとのこと。この話は、「ぎんなん募金」で被災地支援を続けている本校児童の心に強く残ったと思います。

また、世界を100人の村にたとえると、十分な栄養をとることができるのは50人、文字が読めるのは30人、大学に行けるのはたった1人にすぎないという話に、児童は、自分たちが地球上で凄く恵まれた環境にいることを学びました。

長谷川さんの話を聞いて、「この恵みを世界規模で考えていくことこそ、私たちのめざす『夢』なのかもしれない」という児童がいました。「当たり前のように過ごしている今の環境に感謝しなければいけない」「世界中の人たちに助けられて生きているのだから、今度は世界の人のために自分ができることを頑張りたい」といった言葉もありました。

授業の最後に、長谷川さんから「誰かのために役に立つ心優しい人になってほしい」というメッセージをいただいた6年生。一連の学習が深まり、また、長谷川さんの熱い思いに胸を打たれた授業でした。